



発行 〒894-0007 鹿児島県奄美市名瀬和光町1700番地

国立療養所 奄 美 和 光 園

電話(0997)52-6311 FAX(0997)53-6230

平成31年2月1日 (2019)





■表 紙1	
■年頭に当たって2~3	
■平成30年度合同慰霊祭∠	1
■キャンドルサービス&イルミネーション点灯式・・・・・ 5	5
■ふるさとお楽しみ便6	3
■ ハンカン病療養所医療従事者海外研修を終えて・・・6 ~ 7	7

■ 平成30年度国立ハンセン病療養所介護員研修に参加して・・・ 8

■新人紹介9
■永年勤続表彰10
■朝日小学校 施設訪問お礼のお手紙11~12
■第72回国立病院総合医学会 看護研究発表に参加して・・・・・12
■第182回日本皮膚科学会鹿児島地方会に参加して・・・・・13
■SOSシミュレーションを実施14
■ NST News Letter ······15
■平成30年度診療統計16
■人事異動・編集後記16

基本理念

私たちは、入所者一人ひとりの生命の尊厳と人権を守り、 豊かな自然環境につつまれた穏やかで心豊かな療養生活と、 安全で安心できる医療を提供します。



基 本

- 1.入所者の終の棲家として心穏やかな暮らしを支えることを基本とします
- 2. 入所者自治会とよく話し合い 入所者本位の運営に努めます
- 3. 入所者一人ひとりの日々の変化にきめ細かく対応いたします
- 4. ハンセン病による後遺症や合併症の対策をしっかりと行います
- 5. 入所者が高齢化していることを念頭に置き 健康保持の活動や生活を支える医療 さらには感染予防·認知症対策に重点を置きます
- 6. 地域医療とも連携し 適切で標準的な医療の提供に努めます
- 7. ハンセン病に対する正しい知識を普及させるため 啓発活動に努めます
- 8. 開かれた療養所となることを目的に地域社会との交流促進に努めます
- 9. 入所者の健康と安全な生活に貢献できるようすべての職員の質の向上に努めます

华额的多伦。了



国立療養所奄美和光園 園長 加納 達雄

明けましておめでとうございます。平 成三十一年が始まりました。平成の年号 は今年の四月までと決まっていて、翌月 からは新しい年号に変わります。和光園 の歴史も昭和・平成を経て、新たな年号 へと続きます。平成の三十年間に日本を 取り巻く国際環境は大きく変わり、それ と同時に日本の国内も大きく変化したと 感じています。後世の歴史家は平成時代 をどのように評価するのでしょうか。個 人的な感想ですが、少子高齢化とIT (情報処理技術) により日本の世相も随 分と変わったと思っています。社会の根 幹である家族形態すらも変わりつつあり ます。婚姻制度は男女の合意を基本とす る結婚だけではなく、性別を問わず相互 の相性を最優先するパートナーシップも 許容されるようになりました。子育ても 各家庭の養育義務としてだけでなく、子 育て支援として社会保障の一環となりま した。経済的支援に加え、待機児童をな くすための保育所整備も急務となってい ます。また、全ての国民が何らかの形で 社会参画するようになりました。このう ち勤労者に対しては従来からの慣習を改 めるべく、働き方改革を推進し、それで も残る労働力不足には外国人労働者を招 く時代となっています。一人一人の生き 方を尊重する時代となっていますが、日 本人らしさというものがいつまで通用す るのか不安に思うこともあります。一方、 科学技術の面ではAI革命ともいうべき 社会変革が見られました。コンピューター の普及に伴って、情報処理も高度化し、

その最先端とも言うべきAI技術が飛躍 的な進歩を遂げました。頭脳格闘技の最 高峰である将棋の世界でもトップ棋士に 勝利するほどの高度な戦略的能力を示す ようになっています。また、ITは家電 製品にも組み込まれIoTなる概念で我々 の生活に密着する時代がすぐそこまで来 ています。その反面、ゲームをこよなく 愛する若者が出現し、ゲーム中毒という 言葉さえ出現し、そこから脱却できない 依存症は社会問題にまでなっています。 さらに、空想の世界であった宇宙空間に ついても、地球のごく近くの宇宙空間に まで人間活動が広がり、地球が大きくな ったと表現すべきか、逆に小さくなった と表現すべきなのか、迷うことがありま す。この科学の進歩と一部の人間のエゴ が結びついて地球の平和を脅かしている と感じるのは短絡し過ぎでしょうか。

人々の日常生活の中に当たり前のよう に組み込まれていた自然現象が、昨今異 常気象として生活の質にまで影響を与え るようになってきました。日照、雨、風、 雪などの気象、それに伴う温度変化、天 変地異の最たる地震。それらによる災害 の程度が大きくなりました。凄まじい光 景を呈した東日本大地震による大津波。 毎年見られるようになった大雨とそれに よる水害・土砂崩れ、台風の大型化と迷 走、真夏日の増加による熱中症、どれも これも地球の温暖化が影響しているので しょうか。既に本州の一部が亜熱帯に属 しつつあるのかと錯覚するほど四季の移 ろいにも変化を感じます。春と秋がとて も短くなって、季節感が薄らいだ印象が あります。

これらはこの三十年間で感じるようになった変化のごく一部ですが、療養所ではどうでしょうか。平成時代はハンセン病政策が転換され、それに応じてハンセン病行政も大きく変った時代でした。予防法は廃止され、療養所に残った人々は

ハンセン病基本法の下に終の棲家として 療養所で暮らしています。療養所はまだ 医療機関と位置づけられていますが、最 近では医療中心の考え方から生活本位の 考え方へと徐々に変わってきました。そ して現在では、医療から介護までを切れ 目なく一体的に提供する仕組みを備える ようになっています。奄美和光園でも、 在宅を前提とした暮らしの場として入所 者の望む生活様式を維持する努力をして います。ミニマムサイズのスケールメリ ットを生かし、人々の生活を支える地域 医療のモデルができていると思っていま す。近年では、和光園でもITを駆使す るようになり、園内の連絡はLANを通 して双方向性の情報伝達ができるように なっています。また、診療部門でもLA Nを通して診療情報の提供が可能となっ ています。園外とはインターネットで繋 がり、本省と療養所間の情報交換もオン ラインで行えるようになっています。し かし、同時に昨今のインターネット上の トラブルを回避する目的から高度な制約 がかけられ、便利な反面不自由さも感じ ます。自然現象も和光園に影響をもたら しました。平成22年の奄美豪雨では、 園内を流れる有屋川が氾濫し、一般舎の 方々に緊急避難を呼びかけました。水が 引いた後は、売店前の恵橋の護岸が削り 取られ、橋は通行不能となっていました。 再建まで2年半の時間がかかり、この間 大変な不便が生じました。また最近では、 昨年の台風24号が奄美大島の各地で多 くの家屋に損壊をもたらしました。この ため工事職人の確保が難しくなり、和光 園でも予定されていた工事の延期を余儀 なくされています。

さて、ここからは和光園の一年を予測してみましょう。年が改まり、全ての入所者の高齢化が進みました。しかも一人一人に重積してきた経年変化も全て持ち越されています。毎日の生活の中で更なる"老い"との戦いを強いられています。しかし、気持ちは変わらず、昨年までと同じ生活を望んでいます。職員はこれに

応える仕事をしなければなりません。一 人一人への対処法を工夫し、試行錯誤す る毎日が続きます。昨年までと今年の違 いは、リハビリ部門が増強されたことで す。言語聴覚士と作業療法士が着任しま した。専門分野での機能訓練に加え、生 活リハビリとして看護・介護とも協力し、 衰えた機能の回復・維持を図って欲しい と思っています。結果的に生活の質が向 上し、入所者の人生がさらに有意義にな るよう貢献したいものです。また、医療 の面では、将来構想の中心事業である皮 膚科の一般診療を継続し、また入所者の 体調不良に関しては近隣の医療機関との 連携を活用したいと思っています。和光 園の医療体制を客観的に評価する目的で、 病院機能評価の再々受審を計画し、その 準備を進めます。また、特筆すべきは、 昨年10月から始まった大島郡医師会を 通した当直援助です。これは、当園の当 直体制に奄美支部の先生方が加わり、入 所者の安全な暮らしに寄与しようとする もので、今後もお願いしたいと考えてい ます。また、施設整備も計画通り進めま す。昨年後半に予定されていた工事は、 先に書いた通り、台風24号の影響です べて延期されています。そのため、今年 は、歴史資料館の開設のための高齢者会 館の改修、旧霊安解剖棟や旧火葬場の修 景、その他、使用されていない耐用年数 を超過した一般舎の解体とその跡地整備 等が行われることになります。一方、記 念公園の整備と旧納骨堂の改修は完了し ていて、一般の方々へも紹介したいと考 えています。地域との共存に関しては、 従来通りの開かれた療養所運営を目指し たいと思っています。園の通年行事の他、 奄美市教育委員会主催のふれあい和光塾、 鹿児島県の事業等を通して、地域の方々 と入所者との交流促進を支援する予定で す。

今年も職員の総力を結集し、入所者の 暮らしを支えていきたいと思っています。 職員の皆様のご理解とご協力をお願いし ます。

平成30年度 合同慰霊祭

平成30年度合同慰霊祭が11月15日に講堂で行われ、ご遺族並びに入所者、職員合わせて62名が参列しました。

式典が始まり、会場参列者が御霊に対し て静かに黙祷をささげました。

冒頭、慰霊の言葉として加納園長より 「391柱の御霊にご冥福をお祈りする。和 光園開設以来75年が過ぎ、多い時で360名 を超す入所者も今では24名になっている。 また全ての入所者が老境に達し、今や平均 年齢が85.8歳である。それぞれの看護、介 護の有り様を見直し、日々の生活を支える 工夫を行う。職員の総力を結集して一人ひ とりの人生を支え最大限の貢献を行う。入 所者の静かな暮らしを守っていくためによ り一層研鑽を積んでいく所存である。」と 挨拶及び今後の抱負を語られました。次に、 入所者代表として山田相談係より本日参列 いただいた方への感謝と亡き同輩達の御霊 に対し哀悼の言葉をなげかけられました。 続いて、ご遺族代表から「心のバリアーを

取り除くことが残された家族の願い、最後の一人まで和光園を含め13園の施設で終の棲家としてその人らしい生活を全う出来るよう尽力願いたい。」と職員への期待のお言葉いただきました。

そして挨拶が終わると、参列されたご 遺族の方から順番に中央の祭壇に向かっ て順番に献花が手向けられました。その 後、講堂正面からゆっくりと納骨堂へと 進み、秋空晴天の下、御前に手を合わせ て焼香を行いました。

前年から2名の方がお亡くなりなり現在は入所者数が24名となりました。残された入所者の方々に対して、より一層の支援を職員それぞれの責務でもって役割を果たしていかなければならないと強く思う次第です。

福祉室長 磯部 武嗣









キャンドルサービス&イルミネーション貞灯式

今年で4回目となり、入所者・職員も馴染みとなってきた聖歌隊によるキャンドルサービスとイルミネーション点灯式を平成30年12月15日に開催しました。

今年は企画を考える際に「あまみ保育園の園児達も一緒に楽しめないだろうか」と 良案が浮かび、園児保護者の方の協力もあり、園児の参加が可能となりました。

"夕方17時30分開演"と案内を出し、当 日は17時20分には参加される入所者ほぼ 全員がゆらいの郷へ集まりました。その後 サンタクロースの格好をしたあまみ保育園 の園児が到着すると入所者が満面の笑みと 共に皆「かわいいねー」と子供達に声をか け、開演までの間会話を楽しんでいました。 17時30分開演。純白の白衣に身を包んだ 聖歌隊が明るいキャンドルと共に登場し、 拍手がおこりました。横山事務長の指揮の もと、聖歌隊、入所者、子供達、職員全員 でクリスマスソングを3曲唄い季節を感じ る事ができました。唄を終えると「シャン シャンシャン」と遠くから鈴の音が聞こえ、 ソリに乗ったサンタクロースがやってきま した。「メリークリスマス」とサンタクロー スが挨拶し、入所者と子供達一人ひとりに プレゼントを渡しみんな喜び笑顔が溢れて









キャンドルサービス終了後、参加者全 員で売店前に集合しイルミネーション点 灯式を行いました。今年は馬場副園長に カウントダウンの音頭をお願いしたとこ ろ、島口数え歌を皆で歌いカウントダウ ンをしよう!との事で、数字の1(ティー チ) はなあ~~に♪数字の2 (ターチ) は なあ~に、、、、と10まで数え唄を唄った 後、10.9.8、、、3.2.1、、、あれ点かな い??と少しの間があったものの、パア ーーーと明るくなり歓声が起こり笑顔が 溢れていました。点灯後はすぐに居室に 戻る方や、一通りみて回り帰られる方そ れぞれイルミネーションを楽しまれてい ました。昨年より展示できるイルミネー ションが増えた事で、病室から普段出る ことができない入所者の方が居室にいな がらイルミネーションが見ることができ とても感激していました。

今後も入所者が喜んでいただける様な 企画・運営が行える様に頑張っていきま す。

ご協力いただいた皆様ありがとうございました。

病棟介護員 黒木 貴雄

ふるさと お楽しみ便

平成30年12月12日(火)、自治会事務 所にてふるさとお楽しみ便贈呈式が行わ れました。

まず全入所者に対して、鹿児島県くら し保健福祉部の岩松健康増進課長より三 反園県知事の温かいお言葉を園内放送で



代読していただきました。続いて和光園に届いた、ふるさとお楽しみ便を代表としてK.Iさんが岩松課長よりお受け取りになりました。

その後しばらくの間、秋の県庁舎訪問・ 県内めぐりで経験した数々の楽しい思い 出や来年の企画(南薩摩方面の旅)に夢



を膨らませながら、ゆっくりとご歓談されました。

贈り物には毎年恒例でありながら、県職員の方々より毎回工夫と努力が練られており、ふるさとの香りが込められた詰め合わせの品々がとり揃えられておりました。

文末ではございますが、この場をお借り いたしまして皆様のお心遣いに感謝申し上 げます。

福祉室長 磯部 武嗣

ハンセン病療養所医療従事者海外研修を終えて

平成30年12月2日から12月8日の7日間、フィリピン共和国でのハンセン病療養所医療従事者海外研修へ参加させて頂きました。今回の研修では、マニラ市内やセブ島、クリオン島の島々をめぐりました。

セブ島では皮膚科クリニック、保健省や 市の保健所、療養所への訪問、クリオン島 では療養所訪問をはじめ資料館の見学や島 内の歴史探究、マニラ市内では総合病院へ の訪問、そして各施設ではフィリピンの医 療の現状やハンセン病に関する講義なども 行われました。

研修を通して、ハンセン病の新患や子供 など若い世代の症例、診察状況を実際に見 学させて頂いたこと、フィリピンのリハビリテーションの現状、また日本との違いを学び、感じることが出来たこと、さらに現地で活躍されている各施設のスタッフや患者のみなさんと交流する機会を頂けたことはとても貴重な経験となりました。またフィリピンの人々、園の入所者の方々の暮らしを知る中で、改めて対象者へ作業療法を通し、どのような関わりが持てるのか、自分なりに考え直すことが出来た機会となりました。

今後も入所者の方々の生活に寄り添い ながら、毎日を笑顔で楽しく過ごして頂 けるような関わりを大切に支援すること が出来ればと思います。

今回、このようなとても貴重な機会を 与えてくださいました、加納園長先生を はじめ職員の方々に心より感謝申し上げ ます。

作業療法士中里あゆみ



セブ島 子供たちとの交流



フィリピンの食事



セブ島 エバースレイ・チャイルズ療養所内のリハビリテーション棟



セブ島 療養所近くの街並み



マニラ市内 ホセ・R・レイエス記念メディカルセンターへの訪問



Dr.クナナンと現地スタッフ、参加メンバーの方々と

平成30年度 国立ハンセン病療養所介護員研修に参加して

平成30年12月12日~14日まで、沖縄 愛楽園にて開催された介護員研修に参加 させて頂きました。

本研修の目的は、国立ハンセン病療養 所の入所者の高齢化に伴い療養介護の重 要性及び介護員としての、役割と責任を 再認識するとともに業務遂行能力の向上 を図る事でした。最も印象深かった講話 は、野村園長の講義での「入所者にとっ て日々の充実が最も重要で、人は必ず死 を迎え人生には限りがあり、今このかけ がえのない生を豊かにより良く生きるこ とを考えることが大切で、先のことでは なく今をどうするかが大事である。」と いう愛楽園におけるライフサポートの考 え方でした。今後は、研修で学んだ事を 活かし、入所者の皆様の高齢化に伴う機 能低下によるADLの低下がみられる状 況の中、一人ひとりがその方らしく安心 して充実した日々を過ごせるように、一 日一日を大切に関わっていきたいと改め て感じました。

当園は他療養所よりも入所者に関われる時間がとれている事も踏まえて、介護員として何をするべきか常に考え、QOLの向上を目指して、役割を果たせる様

尽力したいと思います。今回、このような 機会を頂きありがとうございました。

不自由者棟介護員 下川 満











言語聴覚士 田中 久美子 (たなか くみこ)

この度、和光園に入職いたしました田中久美子と申します。出 身は奄美市名瀬です。

好きなことは四季折々の植物を見ること、鳥のさえずりを聞く ことです。ハブには要注意ですが、島をよく知る皆様に色々なこ とを教えて頂きながら島での暮らしや自然も楽しみたいと思いま す。

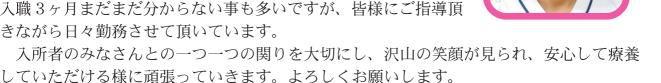
言語聴覚士は、ことばでのコミュニケーションや食べることにしづらさを抱えた方々を 支援する職種です。皆様が自分らしい生活を送れますようお手伝いできればと考えており ます。宜しくお願い致します。

不自由者棟 白間 愛子(しらま あいこ)

11月からゆらいの郷で勤務させて頂いております、奄美産まれ 奄美育ちの39歳です。

夫と、長男・長女の4人暮らしです。

看護師としては精神科・内科・透析を経験し現在に至ります。 入職3ヶ月まだまだ分からない事も多いですが、皆様にご指導頂 きながら日々勤務させて頂いています。





作業療法士 田口 真奈美 (たぐち まなみ)

皆様初めまして。琉球病院より赴任して参りました作業療法士 の田口真奈美です。

奄美のとても綺麗な海だけではなく、方言にも癒されています。 皆様が今後も、穏やかで心豊かに過ごせるようお手伝いをさせて いただきたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。



このたび、このように永年勤続の表彰を 賜りましたことは、身にあまる光栄でご ざいます。厚くお礼を申し上げます。

授賞式が終わって今思うことは、この栄 誉はけっして自分だけの成果ではないとい うことです。これまで自分を指導し育てて いただいた先輩の皆様と、自分を支えてく れた同僚や部下の皆様のお蔭であると実感しています。

これまでの30年を振り返ってみますと、 転勤の連続でした。

単身赴任で一人勤務地が多かったため、 公私ともに孤独との戦いだったように思 います。

行く先々でたくさんの人たちから多く のことを教わり、さまざまな経験をさせ てもらいました。今自分があるのは、そ の人たちのお蔭だと思います。

これからも人との絆を大切にし、これ から起こる新しい出会いに期待して、仕 事に頑張ってまいります。

今後とも変わりないご指導を賜りますようお願い申し上げます。 ありがとうございました。

診療放射線技師長 吉元 靖

平成11年4月に採用され、早いもので この度、永年20年表彰を頂きました。

当初は、介護について何の知識もなくただ先輩方の仕事を見て学んでいく毎日でした。未熟だった自分がこうして表彰を受けることが出来たのも入所者たちの温かい言葉や励ましの言葉と先輩方のご指導があってのことだと思い感謝の気持ちでいっぱい

です。

ひとえにこれまで携わった方たちに支えられてきた20年だったと思います。 これからも入所者の方たちの思いに沿った介護が行えるよう頑張っていきたいと 思います。有難うございました。

自由者棟 看護師 朝野 寿枝

このたびは、30年永年勤続表彰を頂戴しまして、誠にありがたく、大変光栄に存じます。

私は、昭和63年敬愛園で採用されて以降、7施設で勤務して参りました。

永年勤続表彰をいただけるとの連絡をいただき、日々の仕事に追われいつのまにか30年たってしまったように感じておりま

す。このような受賞の機会をいただきま したことは、皆様の深いご厚情のたまも のであると存じ感謝申しあげます。

今後も職場での仕事に励みますので、 よろしくご指導、ご鞭撻のほどお願い申 し上げます。

薬剤師 田原 直行

まずは、永遠勤続表彰をいただきご報告しますとともにお礼申し上げます。

私は昭和53年に多磨全生園に入職しました。それから平成3年まで多磨におり、その後奄美和光園に採用されました。しばらくは賃金職員でしたが、平成11年に定員内採用され義肢工作に携わりました。現在は庶務係に在籍していますが、各職場を異動しその職場職場にていろいろな人と関わり現在にいたっております。ハンセン病

施設勤務としては40年余りでありますが、こうやって勤続できたのも、関わってくださった周りの皆様との縁だと思います。表彰を受けた年に定年を迎えるのも不思議な感覚です。

これからも皆様との縁を感じつつ勤め ていきたいと思います。

庶務係 青堀 実

朝日小学校施設訪問お礼のお手紙

~ 和光園のみなさんへ ~

このあいだは、和光園の見学をさせていただき、ありがとうございました。

私は、ハンセン病のことをあまり知らな かったので、見学、おはなしなどを聞かせ てもらい、たくさんのことが分かりました。 家族に迷惑がかからないように名前を変え たりしていたことや、みんなにうつると思 われ療養所に閉じこめられて、家族と会え なくなったことを知って私は、ハンセン病 の人は何も悪いことはしてないのに、なん でこんなことまでしなきゃいけなかったの と思いました。他にもハンセン病のしょう じょうを聞かせてもらいました。顔が変形 してしまったり、手や足がまがってしまっ たり、いたみを感じなかったりすることな どで、工夫して生活していることなどが分 かりました。私は、ハンセン病のことを知っ て、人々が苦労して、生活をおくっていた んだと思いました。

これからは、色々な人に優しくできるようにもっとがんばりたいと思いました。おいそがしいなか、見学をさせていただきありがとうございました。

5年1組 栄 真優

和光園のみなさん、和光園を見学させていただいたり、ハンセン病のことを教えていただいてありがとうございました。

わたしは、和光園のことやハンセン病のこ とをたくさん知りました。ハンセン病のこと をビデオで見たり有川さんに聞いたりして、 昔の人はさべつをうけて苦しんだり、家族と はなれたりしないといけなかったと聞いてわ たしは昔の人はとてもかわいそうでいやな思 いをしたんだなと思いました。ハンセン病に かかって治っても手足が変形したり、目が不 自由な人もいるけど、その人なりに工夫をし て生活していることがとてもすごいです。和 光園を見学して、亡くなった人のほねをあず かっている部屋を見て手を合わせてもくとう をした時に、わたしは亡くなった人も家族と はなれてくらしてきたけど、これからはゆっ くり休んでくださいと思ってもくとうしまし た。

わたしは、これからは年下にやさしくしたり、さべつをしたりしないでみんな同じようにせっしたいです。和光園のみなさんこれからも楽しく元気でくらしてください。

5年1組 世門 瑠奈

11月21日は、いろいろなことを教えてくださってありがとうございました。ハンセン病のしょうじょうやハンセン病の歴史などを有川さんのお話を聞いたり、えいぞうを見たりすることができて、すごく分かりやすかったです。わたしは、和光園に初めて行ったので、とてでっくりはした。資料ももらったのでは、でみようと思いましたりに帰ったらじっくり読んでみようと思います。そして、世の中から差別などをへらすいしまったしもお年よりのお手伝いをしたりいます。からの学習に役立たせます。

今日はおいそがしい中、ハンセン病のことを 教えてくださって本当にありがとうございまし た。

5年2組 小牟田 ひな

11月21日は、おいそがしい中ぼくたちにハンセン病のことを教えてくださりありがとうございました。ぼくは今、ハンセン病で使われる薬の成分や効果について調べているんですけど、パソコンで調べてもでてこなかったことが質問する時に知れたのでうれしかったです。

ぼくたちは、みな様に教えてもらった ことをまとめて新聞を作ります。だから 最初にもらった資料も新聞をつくるには 大切です。

ぼくたちのために準備してくださって本当にありがとうございました。みな様に教えてもらったことでもっとハンセン病のことが知りたくなりました。これからもお仕事がんばってください。

5年2組 元 一進

和光園のみなさんお忙しい中ていねいに説明していただきありがとうございました。本 当に色々な事を勉強することができました。

ハンセン病がどんな病気かどんな症状がでるのか、和光園にくらしている人は、どれくらいいるのかなど、今まで知らなかった事をたくさん知ることができました。

しせつの中にどんな建物があるのかもよく 分かりました。けど今も他の人からのめを気 にしてることを知って悲しくなりました。

ハンセン病のことをたくさん知って私もしせつの職員の方々のように差別のないやさしい人になりたいと思いました。

ハンセン病のことをたくさんの人が知っていつか差別のない世の中になったらうれしいです。

5年3組 久木田 佳穂

和光園のみなさん、今日はいそがしい中、 私達にハンセン病についての事だったり、 和光園の中の道あんないだったりとか色々 教えてくれてありがとうございました。

そして、頂いた資料を読むと、もっとハンセン病のことがよく分かりました。また、おいしいお茶も頂き、おいしかったです。ありがとうございます。

私がしらない事などもわかりやすく説明してくれて、とてもわかりやすかったです。 私は今、障害者差別のことについて調べています。今日聞いたことを今調べている 差別や偏見の学習に生かしていきたいです。 今日ほんとうにありがとうございました。

5年3組 中田 小百合

第72回 国立病院総合医学会 看護研究発表に参加して

第72回国立病院総合医学会が「多様性のなかに個が輝く~私たちの医療を推進します~」をテーマに11月9日~10日、神戸国際展示場・神戸国際会議場にて開催されました。

私達不自由者棟看護研究メンバーは、口演を選出し「看護・介護者の認識、理解、態度」の分野で「国立ハンセン病A園不自由者棟における看取りケアの認識と課題」と題し、オブザーバーと2人息を合わせ、落ち着いて発表する事が出来ました。演題の中からベストロ演賞の発表があり「奄美和光園」と名が呼ばれた時は、驚きと喜びで一杯になりました。また期間中に病院・療養所の発表を聴講する事もでき、特にハンセン病施設は高齢者・看取りケア・多職種との関係など現状から同じような課題を

抱えているんだなあと印象 深い内容でした。

発表を終えた後参加メン バーと共に神戸観光、美味 しい食事を堪能できました。 今後は看護研究の成果を自 部署へ還元出来るように努力したいと考 えています。

発表にあたり園長先生・馬場先生を始め、看護課のご指導と不自由者棟スタッフのご協力の賜物と深く感謝いたします。 本当に有難うございました。

不自由者棟看護師 押川 春美 今里 百合子



第182回 日本皮膚科学会鹿児島地方会に参加して



作る細胞の集まりであり、顔や頭皮に多く存在します。結果的に脂腺癌も顔や頭皮に発生しやすい傾向がありますが、①今回は腹部にできたこと、②「癌」であるものの成長が緩徐であったこと、③「脂腺癌」っぽく見えなかったこと、の3点が特徴でした。

私が研修医になった年は、現在の研修医のカリキュラムと異なり、医学部を卒業した後は即座に希望する科の研修医となりました(年齢がバレますね)。私は、早く独りでメスを握れるようになりたかったので、皮膚科を選択し、2009年には皮膚科専門医試験にも合格しました。その後、通常であれば、研修医を育てる指導医となり、珍しい症例があれば研修医に発表させて、となるところ、主人の「奄美に住みたい」のひと言でお世話になった浜松医科大学の医局を抜け、当園に赴任するにあたり鹿児島県皮膚科医会に所属し、現在に至ります。

静岡県も鹿児島県も、地方都市では総合病院でも皮膚科医は独りで診療にあたって医療にあるをとが多く、専門的な治療は大学病院や医療なります。奄美の場合、離島だからこそ「顔の見える関係」が大切であり、年に1回に見見ると関係」が大切であり、年に1回に見見ると関係」が大切でありたがありた生方と顔を合わせるためにも、本をでしています。ただ、本的とは全くの別人で、社交の内で、社交のはありません(泣)。学会会場の後ろの席でのはありません(泣)。学会会場の後ろの席でありませんではせっかくで、存在を上りまです。これではせっかく恵児島ませんのではませんので(笑)、学会出席時るわけにもいきませんので(笑)、学会出席時

には必ず発表を行うようにしています。 鹿児島地方会は4月、7月、12月と年 に3回開催されるため、年1回の参加 &発表が目標です。奄美群島には当園 しか常勤の皮膚科専門医がいないため、 興味深い症例に出会うことが少ならありません。また赴任から8年になり、 1例報告だけでなく、数年間の統計報 告もできるようになりました。現在も、 いくつか学会発表用の症例、論文発表 用の原稿を温めているものがあり、少 しずつ形にしてきたいと思います。

学会に続いて行われたセミナーでは、 改訂されたばかりの蕁麻疹ガイドラインの講演がありました。「がん」の分野だけでなく、近年は免疫の分野においても医学の進歩は目覚ましく、略語を理解しないと話についていくことができません。蕁麻疹の重症度を評価するスコアは「UAS7」、症状がコントロールされているかを評価するスコアは「UCT」とのこと。

「U.S.A.」なら踊れますけど・・・

副園長・皮膚科 馬場 まゆみ



SOSシミュレーションを実施

平成30年12月13日 園内SOSシミュレーションを行いました。

実施に先立ち、7月から馬場副園長指導のもと、看護師を除く全職員64名にBLS研修を受けていただきました。BLS研修では意識のない人を発見したときに慌てず、質の高い胸骨圧迫と正しくAEDを使用できることを目標にしました。

インストラクターは事前に技術チェックを行い副園長から認定書をもらった看護師10名が指導に当たります。毎年実施しているBLS研修ですが、1年ぶりの実習に「腕を曲げないで」「交代の声掛けは聞こえるように」などインストラクターのアドバイスを受けながらどの研修生も真剣に技術を習得していました。

11月までに全員がBLS研修を終えSOS シミュレーションの当日を迎えました。

ゲートボール場に人が倒れている想定で、 発見者は介護員2名です。安全推進担当者 が評価者として見守る中、発見者役の二人 が緊張しながらも発見・通報(ハリーコす。 通報を聞き、各部署から駆け付けた応援者 と協力しAED装着・ショック後は胸骨圧 迫を再開します。部署の師長も指揮をとり、 少し遅れて駆け付けた加納園長に状況報告 しています。病棟に搬送するための園内救 急車も到着しました。(ここで蘇生人形は 男性職員に交代)地面に横たわっている男 性を複数人でストレッチャーに移し車に搬入します。その間も胸骨圧迫・補助換気は中断しないよう声掛けしています。病棟では救急搬入の連絡を受け病棟スタッフが待機しており、車から病室へとスムーズに搬送し、病室のベッドに移った時点で今回のシミュレーションは終了しました。

今回のSOSシミュレーションの目的は「BLS研修での技術の確認と多職種が連携して救命にあたることができるか」ということでしたが、評価者からは「胸骨圧迫が不十分になることがあったので確実に実施できるように」「屋外のためもう少し大きな声を出すと良かった」などのコメントがありました。部署によっては課題も確認できましたがシミュレーションの目的は概ね達成できました。

園は正門から一番奥まで約700メートルあり、敷地内に川が流れているなど半分が屋外になります。緊急事態に遭遇した時に屋内外を問わず職員が慌てず行動できるようになることがシミュレーションの目標でもあります。今回の経験を、イザッという場面で発揮できるようになりたいものです。

BLS研修、SOSシミュレーション実施 にあたりご協力いただいた皆様、ありがと うございました。

医療安全担当 谷村 優子











NST News Letter

No.8

"食"のリハビリテーション

食べる機能を維持できるように、リハビリを行う言語聴覚士の田中です。食のリハビリテーションと、言語聴覚士の仕事をお話させて頂きます。

日常生活で私たちは言葉、会話によって お互いの気持ちや考えを伝え合い、経験や 知識を共有して生活をしています。言葉に よるコミュニケーションは、話す事、聴く 事、声を出す事、会話の内容を理解できる とか各機能が関係していますが、病気やう 通事故、発達上の問題などで、このような 機能が損なわれることがあります。言語聴 覚士は言葉によるコミュニケーションが、 困難な方に専門的なサービスを提供し、自 分らしい生活を構築できるよう支援する専 門職です。また、摂食・嚥下の問題にも専 門的に対応します。

さて、上記タイトルにも挙げました、「"食"のリハビリテーション」をお話しする前に一つご質問です。皆様にとって食べることはどんな意味をもつものでしょうか?

栄養を摂るためのもの、生きていくため に必要なことなど、様々なことが挙げられ るかと思います。人によっては、家族や仲間との団らんの場になりそれを楽しみにし ていた方、お仕事をしていた頃の名残りで、 食事は簡単に急いで済ませていた方など らっしゃるかと思います。このように、食 べることはこれまでの生活習慣や人生を反 映し、個人によって意味の異なる活動の一 じや本などのメディアでも嚥下障害や誤嚥 性肺炎というテーマが取り上げられること が増えています。しかし、単にむせずに食 べた、栄養を確保できたということに議論が集中し、「"食"のリハビリテーション」の本来の目的である活動性の向上や自分らしく生きるための自立支援を目指したものではない現状も少なからず見受けられます。

大切なことは「木を見て森を見ず」に ならないこと、摂食・嚥下障害のみに固 執するのではなく、生活の一部である 「食」として捉えることで、その人らし い本来的な「食」の欲を満たすことに繋 がると考えます。和光園には、入所者の 皆様を支援する特色あるスタッフが数多 くいます。口腔ケアやその他の様々なり り組みが入所者や職員の皆様の協力のも とで行われることで、寝たきりの予防と 自分らしく過ごせる自立生活の支援に繋 がり、結果として全身の機能低下の予防 に寄与できるものと考えます。

入所者や職員の皆様、近頃食べ物が噛みにくくて、好きな物を控えるようになった、食べたり飲んだりした後に咳が出やすくなったなど、気になる点がございましたら、気軽にお声かけください。

現在、和光園のリハビリテーションスタッフは理学療法士1名、作業療法士2名、言語聴覚士1名の合計4名となりました。入所者の皆様がより自分らしく過ごせるよう、一丸となってサポートを行っていきたいと考えています。今後とも宜しくお願い致します。

言語聴覚士 田中 久美子

平成30年度 診療統計

			外来診療			再掲		入院診療		
	初診(人)	再診(人)	合計(人)	1日平均 (人)	診療実日数 (日)	紫外線療法 (件)	手術/生検 (件)	入院(人)	退院(人)	延患者数 (人)
11月	169	266	435	39.5	11	90	9	0	0	0
12月	158	272	430	39.1	11	84	7	0	0	0
1月	141	231	372	37.2	10	77	2	0	0	0

- ・8月から完全予約制となり、初診・再診ともに季節変動がなくなった。
- ・この3ヶ月においても軽症のうちに受診する患者が多く、入院治療を必要とする患者はいなかった。
- ・外来診療においては、診察日当日までにすべて予約枠が埋まっている状況で、待ち時間の大幅な短縮となり喜ばれる一方、受診したいときに予約が取れないという声もある。
- ・無連絡キャンセルの方が、ほぼ毎回数名いらっしゃるので、他の患者さんのためにも キャンセルの御連絡いただけると幸いです。

人事異動 (平成30年11月1日~平成31年1月31日)

H 30. 11. 3	重原	恵美	看護師	育児休業
H 30. 11. 5	白間	愛子	看護師(臨任)	採用
H 30. 11. 13	山下	ひとみ	看護助手	辞職
H 30. 11. 14	大海	かおり	看護助手	採用
H 30. 12. 17	竹下	智美	看護師	育児休業
H 30. 12. 19	田中	久美子	言語聴覚士	採用
H31. 1. 1	田口	真奈美	作業療法士	NHO琉球病院より



川沿いを歩いていると、1本だけ賑やかな木があり、のぞくとメジロがたくさん止まっています。まさに目白押し!驚かさないように木の下を通ることでした。先日、園の入り口の緋寒桜の花にメジロが2羽来ていました。鳥にもインフルエンザがあるらしいけれどとりあえずこの2羽は元気なのだなぁと思いました。春はそこまできているようですが、インフルエンザ警報は継続中です。メジロにはできない、うがい・手洗い・咳エチケットで元気に冬を乗り越えましょう。

編集委員 谷村 優子